●「急性アルコール中毒」

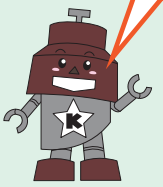
春は、飲酒機会が多い時期です。「イッキ飲み」や「お酒の強要」など大量の飲酒から急性アルコール中毒になる場合があります。大量のアルコールを短時間で摂取することにより体内のアルコール濃度が一気に高くなり、意識レベルの低下、嘔吐、血圧低下、体温低下などの症状が現れ、死に至ることもあります。

血中アルコール濃度は飲酒後30分から1時間程度でピークになります。ゆっくり飲酒していれば、「これ以上飲むとよくない」と気づくことができます。しかし、一気に飲酒をすると血中アルコール濃度がピークにきたときにはすでに大量の飲酒をしていることになります。

<川口市では>

平成25年に市内で急性アルコール中毒で救急搬送されたかたは130人いました。月別で搬送者数が多いのは5月、8月、12月で、大勢で飲む機会が増える季節でした。年代別では、29歳以下が48人で全体の３分の1を占めます。

こんな人がいたら要注意！



泥酔した人がいたときには、そのまま昏睡状態にならないように一人にしない注意が必要です。吐いてしまったときは、顔を横に向け、吐物で窒息しないようにすることも大切です。また、呼びかけても容易に反応しない、呼吸数が減っている、失禁などがあれば、医療機関を受診させましょう。

自分の適量を知り無理な飲み方をしない、飲酒の無理強いをしないようにしましょう。

■骨粗しょう症は病気です

川口市立医療センター
整形外科　医長　海老原貴之（えびはら たかゆき）

「骨が脆（もろ）くなるのは年のせい」と思い込み、誰でも皆、骨が少なくなるものだと考えてはいませんか。確かに、女性は閉経後に急激に、男性でも70歳を超えると骨の減少が進むといわれています。しかし、その程度は人によって大きく異なり、糖尿病や肺の病気などの内科疾患がある人は、骨への影響が大きいといわれています。骨粗しょう症は、骨の密度や質が低下する病気です。進行すると、つまずいただけで骨折を起こすことがあります。腰の骨や、股関節の骨を大きく骨折すれば、長期の入院や手術が必要になることがあり、その後の人生で大きく負担を強いられることになります。65歳以上の女性を対象とした調査では、介護が必要になった原因として、骨折や転倒が12.1%を占めることが分かっています。つまり、骨粗しょう症にならないよう、また、なってしまっているかたは、しっかり治療を受けることが重要です。日常生活で気をつけることとして、カルシウムの豊富な乳製品を十分に摂ること、運動としては、歩くことが大切です。女性は1日6000歩、男性は7000歩が目安です。また、屋外を歩くことで、カルシウムの吸収に必要な日光を浴びることができます。もっと積極的に健康増進を図りたいかたは、整形外科専門医のいる病院や診療所にご来院いただければ、簡単に骨密度を測定することができ、一人一人に合わせた骨粗しょう症の治療を受けることが可能です。ぜひ、お気軽にお近くの医療機関でご相談ください。

ひと　受け継がれる職人の志

増幸産業株式会社　代表取締役社長　増田幸也（ますだ さちや）さん（本町1）

ダイヤモンド以外のあらゆる物質を超微粒化する粉砕機。社員わずか25人ながら世界12カ国で特許を持つ技術力で、食品用の超微粒粉砕機では国内シェア70%を誇る。幕末に国内では製造不可能とされた大砲「18ポンドカノン砲」を作った川口鋳物師（いもじ）・増田安次郎の子孫だ。

粉砕機は先代社長であった父親が心血を注いで開発したもの。発明家だった先代はさまざまな製品を世に送り出した。そこへ「品質」を吹き込み鍛え上げ、磨きをかけたのが増田さんだ。昭和55年に入社したころ、かつて増幸製品を販売していた代理店の社長から「いつもアイディアは素晴らしいが品質はいまひとつで、仕方なく他社の製品を扱うようになった」と聞いた。これではいけないと、社長就任後5S活動をスタート。当時大企業でも取得が難しいと言われたISO9001を取得し「品質最優先」を掲げた。

その後、更なる高みを目指すには〝人の質〟を上げねばならないと考え「人質（ジンシツ）の向上」を掲げて再スタート。目指すは〝心のこもった仕事ができる社員の育成〟で「ファンを作りたい。そして実際に製品を使いファンになると人に言いたくなるもので、うちの営業マンが100回通うよりも強い一言になります。そう思っていただける会社になりたい」と理想像を描く。

苦しいことも「苦楽（くらく）しい」と思えばいいというのが増田さん流。50歳を過ぎてからマラソンを始め、オートバイに乗り、作詞作曲してCDを作ったり。そんな増田さん自身の人生観から生まれたのが「おもしろ可笑（おか）しく一所懸命」という社是。「世界トップクラスの技術」の自負と同時に「常にレベルアップしなければ、世界的な競争に勝てない」という危機感も。高い技術力とたゆまぬ努力でものづくりに挑む志は、川口の職人に脈々と受け継がれていくことだろう。（俊）

地域の力で子どもの安全を　防犯

季節の変わり目は、不審者発生事案が増えてきます。
平成25年中は193件発生し、前年に比べ14件増えています。

◎不審者発生事案の特徴
- 被害者の7割以上が女児です。
- 下校時間帯に多く発生しています。
- 道路上で多く発生しています。
- 子どもが一人になったときの被害が8割以上です。

◎子どもたちに教えましょう
- 知らない人には近づかず、絶対について行かないようにしましょう。
- 不安に思ったら、とにかく逃げましょう。
- 逃げるときは、大声で助けを呼んだり、防犯ブザーを鳴らしましょう。

◎地域の人たちで見守りましょう
- 犬の散歩や買い物などは、出来るだけ下校時間帯に合わせましょう。
- 防犯ベストや帽子などを身に着け、通学路をパトロールすると効果的です。
- 子どもと顔見知りになり、挨拶などで声を掛けると子どもたちに安心感を与えます。

問防犯対策室　☎048-242-6361